医事万華鏡

2．日本は世界のまほろば

日本を取り巻く国際情勢は、韓国の〝徴用工〟訴訟や自衛隊機へのレーダー照射問題に加え、ロシアとの北方領土交渉の行方等で、一段と不透明さと不安定さを増しています。韓国に至っては、国家間合意を平然と反故にするようなその非文明的な振る舞いに、多くの日本人が辟易しているようでもあります。ただ、これらの納得し難い問題は、見方を変えれば日本の針路を、わが国がどうあるべきかを顧みる良いきっかけになるとも言えそうです。

翻って、戦後70年以上もの間わが国は、戦勝国の意見が罷り通る外交の場で、言うべきことをきちんと伝えてきませんでした。敗戦国の日本は、微に入り細を穿つ戦勝国の一方的な要求をしぶしぶ呑んできました。いわば、不可視の牢獄に繋がれてきたと言えます。しかし国際情勢が変動している今こそ、不本意な要求や制約を断ち切り、「駆け引き」に一歩も怯むことなく、より多くの国益に適う形で外交的な手腕を発揮していくべきでしょう。

一方、こうした外交上の関わりだけでなく、わが国の医療についても国際競争に打ち勝つことが求められています。

昨今、発展途上国におけるＵＨＣの達成が世界目標とされる中で、国民皆保険制度を１９６１年に実現した日本の医療はまさに世界に冠たるものと言えます。ただ、イノベーション創出の基盤となるわが国の科研費予算は他国に比べて圧倒的に少ない点は憂慮すべき問題で、このままでは日本は諸外国に追い越されてしまいます。日本の医療を名実ともに世界一にするためにも、国を挙げた取り組みが求められるでしょう。

さて、日本神話で有名な英雄・倭建命（やまとたけるのみこと）『日本書紀』の表記は日本武尊）は、亡くなる間際に望郷の念に駆られ、〝倭（やまと）は 国のまほろば たたなづく 青垣 山籠（やまこも）れる 倭しうるはし〟という詩を詠みました。これを現代語訳すると、〝大和は国々の中で最も優れた場所である。幾重にも続く青々とした垣根のような山々。その山々に囲まれた大和は大変うるわしいところ（まほろば）である〟という意味になります。

５月に新天皇のご即位と共に新たな元号を迎えるわが国は、本年で紀元２６７９年となった世界最古の国家です。かつて倭建命が国を偲んで詩を詠んだように、その比類なき歴史と精神文化を回顧しつつ、日本こそ〝世界のまほろば〟であるとの矜持を胸に、日本の精神文化を世界に向けて発信していくことが、世界における日本の地位向上に寄与するのみならず、混迷の真っ只中にある世界に新たな〝希望〟を示すことに繋がるのではないでしょうか。（ＪＭＳ主幹・野村元久）